

戒壇本尊とは何なのか

廣 田 頼 道

はじめに

十五年ほど以前に、三寶院（当時は「福山布教所」から脱講したいという信者さんがいた。創価学会の信仰上の間違いに目覚め、創価学会と手を結ぶ大石寺の謗法に怒りを感じて三寶院に所属し、私も大石寺、創価学会の謗法と、私達の主張の違いを、その人に五年間、折に触れて話し、説明し、論述してきたのだから、まさか後戻りは無いであろうと思つていたところ、強く大石寺側の信徒の人々に、

「戒壇本尊絶対」

「貫主絶対」

を囁かれ、間違つた信念を持つたらしい。

その方と話し合いをした中で、今でも心に焼き付いているセリフがある。

その人が薄笑いを浮かべ勝ち誇つたように、

「住職、謗法厳戒と戒壇の大御本尊とはどっちが重要なんですか。」

私は即座に、
「謗法厳戒です。」

と、応えた。

相手は呆れたように、付ける葉がない、救いがたいと慨嘆したようであつた。

私は続けた、

「戒壇の本尊は、熱原法難をきっかけとして顕わされた本尊です。日興上人が身延離山をして、後の、大石寺に安置した本尊です。謗法厳戒という大地の上でなければ本尊は立たない、謗法厳戒の基礎でなければ、本尊は倒れてしまふ、謗法厳戒の信心の志の大前提がなければ、本尊の姿をしていても、本尊にはならないんです。そのことがどうして分からないんですか。」

どうしてもその人達には分からなかつたようで、

「戒壇本尊絶対」

「貫首絶対」

の大石寺へ逆戻りして行つてしまった。

私は今でも十五年前の自分の主張した信仰の信念に嘘も偽りも訂正もなく、同様に思い続けている。

法華經の行者イコール仏

日蓮大聖人が終生、自身を法華經の行者と称せられた事には、重い意味があると思う。

- ① 法華經は仏も一切衆生も平等である。
- ② 一切衆生が仏と同じ妙法の生命を有し成佛できる。

- ③ 当意即妙不改本位の成佛。

- ④ 法華經の行者として仏であること。

これらの法華經の内容こそが、爾前迹門の仏が主人公の考え方と、本門の、法が中心、一切衆生中心の考え方との天地雲泥の違いということなのであります。

ここに、南無妙法蓮華經日蓮在御判の本尊が建てられるということは、法華經の心（法）というものを表したものが本尊。ということは同時に表しがたい心（法）を強いて表したものが本尊であるということなのであります。

我々衆生が求める、仏道修行の本当の姿とは、

仏や、仏の跡を求めるのではなく

仏の求めたる法を求める

仏は法を悟った先達としての人間であります。その悟った法を私達に、説き伝えてくれる、その振舞いが高潔で崇高な慈悲と使命感に満ち満ちているために、多くの衆生は仏自体を拝んでしまうのであります。それは間違いであって、我々衆生は、仏を人法一箇の手下として、仏と同じように仏の源にある法を拝し、仏を通して、法になつた生き方を目指さなくてはいけないのであります。そこが法華經以前、法華經以外の經典を依り所とする宗教と、法華經の信心の違いなのであります。

勿論、法華經を信じていても、煩惱を退治する段階を経て悟りや成佛が得られるという、歴劫修行の釈尊の教えの範疇で、仏を拝し法華經を読んでしまふ、仏と自分達は天地雲泥の差が有り、元々違うんだという自縛自縛の中で信仰して、難行苦行、制約、抑圧の中で地獄、餓鬼、畜生……の生命を退治して行けば、仏界だけが残るという、空虚な幻想を求めて、法華經を信じていると思ひ込んでいる人達も沢山います。これは法華經読みの法華經知らずで、完

壁な間違ひなのであります。世の中の大多数が、皆この類いなのであります。

日本は仏教国と自他共に言いながら、国民性の中に法華經の内容など社会、思想の中に、微塵も存在していません。金錢至上主義、天皇を始めとして、政治家、医学者、教育者、経営者等々責任者が責任を取らない。物事の正邪を根本に考えない。等の仏教の精神の流れていない仏教国などあるはずがないのであります。

信仰とは教えのように生きるといふことなのであります。

法華經の教え（心）は、実に簡単で、シンプルな質実、普通、普通の道理なのであります。しかし、実行することが難信難解なのであります。

仏は神のように増上慢に、天地を創造したとか、所有している。等ということは言いません。そして道理（法）も元来、本然として無作にそなわっているものであり、仏が創造したものではないのであります。

仏は法を一切衆生の先達として、人法一箇として認め、悟り、衆生の中でも人間が一番偉いと勘違い

した愚かな衆生の智恵で、魑魅魍魎ともつれさせていた道理を、こんなに分かりやすい単純で簡素なものじゃないか、

◎森羅万象の一切衆生と仏が、元来平等であること。
◎人間が中心の世の中、仏が中心の世の中でもない。森羅万象の生命が中心である。

◎誰にも地獄の生命もあれば、仏の生命も有ること。
◎法華經は初めて諸法の要である本然、無作の法をありのままに説いた法であり、一切諸法の頂点のように表現されるがそうではなく、一切を脱ぎ捨てて原点に回帰した法なのであります。

日蓮大聖人の教えは爾前迹門を破折して、歴劫修行に象徴される灰身滅智の考え方では一切衆生の中の一微塵をも永遠に救うことは出来ないとして、右の四点を本来の立脚点にしたのであります。

だから、日蓮正宗の信仰に縁していながら、権威、権力、名聞名利、組織至上主義、君主主義、覇権主義、中華思想、選民主義等々に陥っている、大石寺、創価学会、顕正会等は日蓮大聖人の示された法の信仰者とは言えないのであります。

創価学会が社会向けには、「民衆仏法」等と主張しながら、本音の陰では池田大作を生き仏のように崇め、池田大作に認めて貰えば正しく。認めて貰えなければ謗法で地獄に堕ちるという。一人一人の仏性を否定し、人間をロボット化し、池田大作がコントロールするという、間違った考え方、生き方をしながら、法華経の信心、日蓮信仰を主張しているということは、その姿勢自体が法華経から外れ、日蓮大聖人の信心とは言えるものではないのであります。大石寺も、顕正会も、思考方法は同じなのであります。

日蓮正宗で、さも有難そうに、伝家の宝刀の如くに説く、

戒壇の本尊

血脈

貫主

相承

相伝

秘伝

口伝

一閻浮提総与

広宣流布

等は皆んな一切衆生成仏の法華経の教え（基本理念）を表現する、意味は同じで言葉だけが違い、同じ事を説明しているのであります。

仏と衆生の差別化や、權威を、さも有難そうに見せたり、一般の民衆と違って超能力があるように思わせたりするようなものでもないし、そんな事のために、これらの言葉を使うこと自体が、日蓮正宗の信心に縁しながら、釈尊、大日、阿弥陀、弥勒、観音、地藏等を拜んでいる信仰と同じ事をやっている、淫祠邪教であるということなのであります。日蓮大聖人と釈尊や他の仏菩薩とを同じ土俵に乗せた上で、入れ替えて、どうだ日蓮大聖人は釈尊や他の仏菩薩より偉い仏なんだぞと、子供が何の中味もなく自慢しているようなことをやっているのです。

何故偉いんですか？ 教えの中味がどう違うんですか？ 中味も分からない、説明も出来ないで、偉い偉いと大声で言うだけならば、文明に関係なく生

きる土民の王様が、鼻輪、耳輪、首輪という權威をジャラジャラ付けて、一番偉いとふんぞり返っているのと同じであります。

日蓮大聖人が偉いという事の最大の理由は、一切衆生成仏の教えを一切衆生に伝え残したからであつて、他の仏と比べて偉いとか、凄い力の持ち主だとか、本仏だとか、偉そうにする必要など元々ないのであります。

貫主が虎の威を借りる狐のように、日蓮大聖人を持ち上げ、利用し、その実体は迹仏であるところの釈尊や、大日、阿弥陀、等のカリスマや權威と同質である。これでは日蓮正宗は、折伏の宗でも、グローバルな世界宗教でもない、仏は仏、衆生は衆生、貫主は貫主、僧侶は僧侶、信者は信者という身分差別流布の宗教である。成仏、安心、救いどころか、人を迷わせる迷惑な信仰、押しつけの脅迫団体であります。主観的な善の主張や絶対化は、それ自体が悪となることをわきまえなければいけないのであります。

信仰は強制や脅迫をして、とりあえず御受戒だけ

受けさせておこうとか、とりあえず御本尊を持たせておこう、正しい信心だから今、嫌がついていても、やがて必ず喜び、感謝するときに来ると言つて、「とりあえず信心」を当たり前のようにやつてきました。しかし、信心は、その人の仏性に受けるものでありますから、強制でなく、当事者自身の自己決定、自己責任に始まる信仰こそが本当なのであります。「とりあえず信心」の為に、心に法を持つことも、縁もなく、誤解や憎しみを日蓮大聖人の法に抱いている人々が世の中に沢山いるのであります。

戒壇の本尊は一切衆生成仏の為に顕わされたのであります。

龍の口の法難を「発迹顕本」といいますが、これは日蓮大聖人だけのことであつて、これだけでは仏の、出世の本懐、「発迹顕本」とは言えません。

出家者として、求道の信心修行一筋に生きてきた日蓮大聖人や弟子達がどんな法難にあつても、それは出家者としての衆生教導の義務と責任の範囲内、覚悟の上のことですから個人のことです。仏の本懐

は一切衆生成仏ですから、衆生が法を中心に、仏と共に師弟一箇として仏と同じ志しに立つて生きる姿が表れてこなければ、仏の真の喜びとする、衆生の真の喜びとする、本当の師弟一箇の発迹顕本（成仏）とはならないのであります。

龍の口法難は仏だけの発迹顕本。

熱原法難は師弟一箇の発迹顕本（出世の本懐・一切衆生成仏の証・宗旨）なのであります。一切衆生を成仏せしめることが仏の大願であり、目的である

のですから、衆生があらわれ、衆生が主人公にならなければ、仏がこの世の中に出世した意味は絶無ということになります。このことから、真の発迹顕本は、一連の熱原法難の中に展開される、師弟の法華經の行者の振る舞いであり、戒壇の本尊は、その振る舞い、心映えを、強いて写し取った物であると言えるのであります。元来木や紙に表現することが出来ぬ師弟の法華經の行者としての仏性を強いて表現して顕わした物なのであります。

一切衆生成仏の確証として示された本尊は、「国

立」とか「世界立」とか「民衆立」とか、時代の政治状況に翻弄されて、いくらでも変化するような物ではなく、一切衆生、森羅万象の生命という生命の心の中に、妙法という仏性を確認し、信心修行によって妙法を確認し、建立し即身成仏をとげることを、戒壇の本尊を表すまでのプロセス一切を含めて示しているのであります。

世界のどこかの一方所を聖地として堂を建てる様な物ではなく、一人一人の妙法受持の法華經の行者の心に建立する妙法でなければ、一切衆生成仏を本懐とする正法とは言えないのであります。

キリスト教の聖地エルサレムが、宗教の権力闘争によつて奪い合いの流血が繰り返され、土地という物が人間の心の憎しみや恨みに左右されるという愚行の歴史を見れば、聖地や偶像崇拜の物体というもののはシンボルとしての、記号、象徴であつて元来、法の心、師弟一箇の成仏の心から出た【色】を【心】へ回歸させようとする、努力の目標として拝するならばともかく、【色】こそ【心】よとする、【色】中心の【色】にこだわる事は、心の外に法を求めるカスの法であり、愚行なのであります。

戒壇の本尊も熱原法難の心を写し表したシンボルであつて、あの大石寺という場所、あの楠という材質、あの寸法に凝縮、凝固し、封じ込まれ、そこから一步も出ることの出来ない魂の存在など有るわけがないのであります。

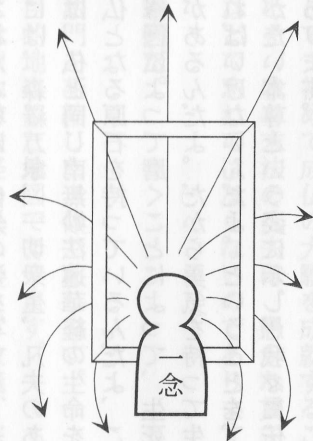
森羅万象、一切衆生の生命（あなた方の生命）はこうなっているんだよということを示されているのが本尊であつて、此の本尊の外には法は無いという教では、森羅万象、一切衆生の成仏を示すことなど出来るはずがないのであります。

御本尊は『窓』である。

朝の勤行で、東に向かつて初座（天拝）の勤行をしますが、諸天善神は東にしかないのでしょうか。東西南北、天上天下、森羅万象、どこにでも色々な姿を通して存在しているのであります。しかし、我々は太陽が昇る東をシンボルとして、便宜的に東天に向かつて勤行をしているのであります。これと同じように、御本尊に頭わした法は、御本尊の所だけにあるわけではないのであります。

一念三千（開）三千大千世界の諸法の実相に開く

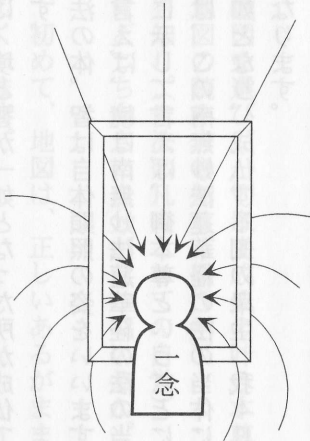
三千大千世界（森羅萬象）



三千一念（合）三千大千世界の

諸法の実相より一念に納まる

三千大千世界（森羅萬象）



御本尊をシンボルとして、窓として、ここを通じて、森羅万象、三千大千世界（法界）の諸法の実相と一箇して、一念三千（開）三千一念（合）として、感得するのであります。

御本尊を窓とは、貶めて表現しているのではなく、真実の法を凡夫心に感得するには、日蓮大聖人が、法華経身読の上、仏滅後二千二百二十余年、未曾有として示された、此の御本尊という、窓でなければ、又、謗法嚴戒の信仰心と一体になった刹那でなければ、此の窓から森羅万象、三千大千世界（法界）の諸法の実相は見ることの出来ぬ、森羅万象の中で、これしかない唯一の窓なのであります。

世界に何千万体の御本尊が存在していても、真理が個々別々に何千万体あるのではないのであります。真理Ⅱ正法とは一つであり、かつ全体なのであります。窓Ⅱ本尊が何千万体あつても窓を通して拝する真理Ⅱ正法は一つの同じものなのであります。

御本尊は鏡である。

二番目の譬えを示します。

一般的に、境と智が一如となつた所が成仏であると言います。

境は万法の体。智は自体顕照の姿をいいます。

平明に言えば、境は南無妙法蓮華経の法の当体であり、姿に示して言えば、御本尊ということになります。智は、この南無妙法蓮華経の法の当体に照らされて一如となり、成仏する側の衆生、我々凡夫という事になります。

つまり、御本尊という対境（鏡）に向かって、謗法嚴戒の信仰心を持つて自らの姿（生命）を写す。ということでもあります。

法を示された本尊に、自分の姿を写す。

御本尊には、森羅万象、一切衆生、凡夫のあなた方の生命は、仏と同じ南無妙法蓮華経の生命を根本として、仏となる原石を持つているんだよ、この原石を信心修行によつて磨くことによつて、生死一如即身成仏があるんだよ。だから勇氣を持つて生きていかなければいけないんだよ。ということ、強い表現しがたい本尊という姿に示し、我々に伝えているのであります。